

津波発生時の対応

津波の場合、横への避難だけでなく、高いビルなど縦方向への避難も重要です!



1 地震の揺れを感じたら津波に注意!

揺れを感じたら、まず身を守り、火の始末を。一旦身の安全が確保されたら津波に関する情報を確認する。

3 避難情報が出たらすぐ避難!

防災行政無線や携帯電話のメール、テレビ・ラジオ等で避難情報が出たら率先して避難する。
たとえ、避難情報が出る前でも、早めの自主避難を心掛ける。

5 海辺や川べりには近づかない!

海岸に近づかないことはもちろん、津波は市街地よりも川を早くそじょうするので、避難時は川に近づかず避難する。

7 「遠く」より「高く」へ避難!

すでに浸水が始まってしまった場合は一刻を争うので、「遠く」よりも「高い」場所に避難する。近くのマンションやビルの3階以上に逃げ込むようにする。

2 テレビ・ラジオや市の広報などで正しい情報を!

テレビ・ラジオやインターネットなどで正しい情報を入手し、過去の経験にとらわれず避難する。

4 避難は徒歩で!

避難は徒歩が原則。車による避難は渋滞を引き起こし、一刻を争う津波からの避難にはかえって危険。

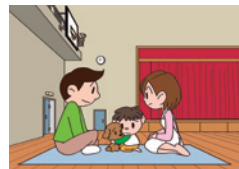


6 地域での協力が大切!

避難の時にはご近所にも声を掛け合い、みんなで怪我や病気の方などの手助けを行うなど、地域で協力し合う避難を心掛ける。

8 水が引いても安全が確認できるまで戻らない!

津波は何度もやってくるので、津波注意報の解除など安全が確認できるまで避難場所等に留まるように。



地震が発生したら慌てず安全確保!

地震発生からの一連の流れを体に馴染ませておく、いざというときに慌てずに行動できますよ!



発生!

- ▶ まず身を守ることに徹する。机やベッドの下に身を隠し、寝ている時は布団や枕で頭を守る
- ▶ 小さな揺れでも火を消す習慣を身につけておく。ただ、自動的にガス供給を遮断するガスマイコンメーターが設置されているので、無理をしてはいけない
- ▶ ドアや窓を開けて脱出口を確保する。集合住宅はドアが開かなくなることもあるが、窓は比較的開きやすくなっている

1~2分後

- ▶ 火の元の確認と初期消火をする
- ▶ 室内でも靴を履いてガラスなどから足を守り、すぐに避難できるようにしておく
- ▶ 家族の安全を確認し、倒壊やけが崩れなどの危険があれば避難する。外出の際は頭上の落下物に注意する
- ▶ 非常持ち出し品を用意する



3~5分後

- ▶ 近所の安全、出火状況などを確認する
- ▶ 地域の要介護者の安否を確認する
- ▶ ラジオなどから正しい情報を収集し、デマに惑わされないようにする



5~10分後

- ▶ 余震や家屋の倒壊、火災の延焼の危険があれば避難する
- ▶ 子どもを学校などに迎えに行く
- ▶ 自宅を離れる時は、ガスの元栓や電気のブレーカーをしっかりと確認する。また行き先をメモに書いて玄関の目立つ所に張っておく

10分後~数時間後

- ▶ 消防への通報、さらには自主防災組織や隣り近所と協力して救助・救出、消火活動をする
- ▶ 避難は徒歩で集団行動し、ブロック塀や垂れ下がった電線、また看板やガラス片など上からの落下物に注意する

~3日

- ▶ 市町村の広報活動やラジオなどから情報を収集する
- ▶ 自宅から自足のための非常用備蓄品を取り出す
- ▶ 自主防災組織を中心に行動する。地域での助け合いも必要